

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	松涛会 社会医療法人	事業所名	看護小規模多機能ケアタウンやすおか
所在地	(〒759 — 6604) 下関市横野町3丁目1-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護・介護の一体化運営により、24 時間 365 日途切れることのない安心できる支援体制を構築している。
 専門職が連携し、ご本人・ご家族の意向に寄り添い看取りケアを実践できている。
 質の良いサービスと、働きやすい環境づくりを目指し、ICT の活用による情報共有の迅速化(インカム導入)や業務改善の見直しを行い、業務効率化と生産性向上に取り組んでいる。
 スタッフの心理的・身体的負担を軽減し、利用者と向き合う時間の確保に努めている。BCP(事業継続計画)に基づく訓練を高度化させ、より実践的なシミュレーションを繰り返し、職員一人ひとりの応急対応能力を高めました。 リスクに対して組織全体で備えることを定着し、職員の安全管理の強化と、持続可能な運営体制を両立している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 12 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(18) 人 ※管理者を含む
----------------	---	------------------	------------------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 1 月 21 日	出席人数(合計)	(10) 人 ※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	☐ 自事業所職員 (6)人 ☐ 市町村職員 (1)人 ☐ 地域包括支援センター職員 (1)人 ☐ 地域住民の代表者		

	(4 人)
□利用者 (1 人)	□利用者の家族 (1 人) □知見を有する者 (人) □その他 (人)

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・事業所理念・行動理念・介護理念・法人理念が連動できるようケアについて勉強会にて学び事業所の方向性を統一して いく。 ・生産性向上の改善を行い事業所の課題が見える化し、職員が 働きやすい環境と利用者への質向上を行う。 ・専門性を活かし、質の向上が図れるように、内部研修・外部 研修への積極的に参加を行う。	事業所内部勉強会や事業所においての倫理行動について、 学び、看護師と介護職員の視点の違いを学んだ ・生産性向上委員会のメンバーを立ち上げ、三か月に1回の委員会を行い、業務改善を行った。 内部研修や外部講師・出張講師にお願いし、拠点内にて、質の向上行い専門性を活かした支援につなげることができた。 ・プライバシー研修 ・感染研修 ・接遇研修 ・認知症研修 ・実技研修	内部勉強会にて「倫理行動」をテーマに、看護師と介護職員がそれぞれの専門的視点から意見交換を実施した。 生産性委員会組織を、定期開催のルーチン化できた。 拠点内での多様な研修形態（内部・外部）を組み合わせ、移動時間の削減と質の高い学びを両立職場でのスキルアップにつながった。 ・常に研修し、理念が現実化するよう工夫している姿がみられる。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	情報の共有には業務の改善・ルール作りをしっかりと行い テクノロジー活用しながら、ケアの質の向上につなげる。スキルアップ・モチベーションアップできるように、職場環境 を整える。	情報の共有がスムーズにいくように、マニュアルの見直しとインカムによる情報共有をリアルタイムにできるように取り組んだ。 ・生産性向上に取り組む事業所の課題や業務の見える化など行い、利用者に	生産性向上の取り組みにおいて、対話を多く持ち職場の環境の改善に取り組めた。 ・テクノロジー活用し情報の共有やリスク予測し、計画書に反映できている。

			合わせた日々の業務が難しく困難な課題などは働きやすい職場環境の整備や業務改善を行い生産性に取り組んだ。 ・生活リハビリを行いながら機能維持や環境整備を行った。 ・訪問を適時行い介護・看護の視点から多角的にアセスメントしプランに反映させている。	・急変時や変化があった時は迅速に対応できるように、ミーティングやインカムによる情報共有し、看護師がオンコールにて 24 時間対応できるよう体制を整え、安心した生活継続を支援できている。 ・適時アセスメント実施し、実践・計画の見直しを行っている。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・多職種との連携を図り他の職種への理解をし、協力すること で医療的ケアの方や認知症高齢者の尊厳が守られ自立支援への取り組み強化を図る ・ACP ケアについて勉強会や研修により深く理解し、人生の最後まで寄り添えるチームケアを行う。	多職種と連携を図り、看護師による、生活リハビリや訪問リハビリの介入により、機能維持や退院時の回復を図れた。 ・ACP ケア（アドバンス・ケアプランニング）入所者全員への取り組みを行っている。個別ケアや尊厳のあるケアを目指し、どのような暮らしを望んでいらっしゃるのかをしっかりと把握する取り組みとなった。 ・ACP の説明においては、専門職の看護師・医師から分かりやすいように丁寧に説明し、その都度、繰り返し実施していく。	主治医・看護・介護・家族と連携し、担当者会議・カンファレンスにて本人・家族の意向を確認し方針を決めている。 ・ACP について、利用者全員に確認・説明・同意を行い、支援に反映している。	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	地域共生社会に向け、地域との関りを深め、看護小規模の特徴を活かし、地域で支え合えるような環境作りを行う ・行事への参加 ・健康相談や運営推進会議等での情報	地域の方や行事参加を行い、顔なじみな関係づくり。 ・急な録外のショートステイ利用	登録外のショートステイの受け入れをすることで、家族の介護負担軽減や急な泊りの対応もできた。 ・看取り切れ目のないケアができ、情報共有と連携を強化している。	

		交換 ・地域の方の交流の場 ・看取りケア体制	・主治医の訪問診療、医療連携を行い、看取りの体制構築を行った。 ・ボランティアの方行事参加	訪問診療ができる医師との連携をとり、看護・介護が在宅での看取りができるよう支援を行った。 ・登録外のショートステイ利用も増え、医療的ケアやレスパイト受け入れも行った。 看取りケアも行い、主治医との連携も密に行えた。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		BCP 継続において訓練・見直し改善を行い、各班の役割・行動 の理解、訓練を行う。 ・感染委員を中心に研修やシュミレーションの強化。 ・災害時訓練施設全体研修・避難訓練(年2回) 風水害訓練 ご家族が相談しやすい良好な関係づくり 接遇研修の継続 職員の働きやすい職場作り、メンタリング等の実施。	生産性向上委員会やテクノロジー活用し、業務改善や棚卸シートにより改善を職員全体で取り組み、その結果を拠点内にて共有し、法人一体となり取り組めた。 ・BCP に基づく訓練と高度化された就業環境と安全管理の強化が行えた。 ・メンター研修 ・避難訓練(年2回)	看多機の強み 24 時間 365 日・切れ目のない一体運営により、安心できる体制の構築や看取りの実行することができている。 ・ACP を行い、本人、家族が安心できるサービス提供につなげている。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	倫理基準が、日々の具体的なケア場面(身体拘束ゼロへの意識やプライバシー保護など)で「実際の行動」として定着している 生産性の取り組み継続し、フィードバックすることでモチベーションを維持している。	・在宅生活の継続、寄り添うケア(看護)、生活を支えるチームワーク、共通意識を持つよう理念を伝わる形で実践にむすびつける仕組みづくり。理念の定着化を行う。 ・業務の効率化ができるよう業務の標準化を行い、テクノロジー活用し、生産性向上を図っていく。(データ化)

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・ ACP について、利用者全員に確認・説明・同意を行い、支援に反映している。 ・ 多職種と連携を図り、看護師による、生活リハビリや訪問リハビリの介入により、機能維持や退院時の回復を図れた。	・ 専門性を活かし、看護・介護の相互研修を深めていく。 ・ 急変時対応・救急搬送の判断基準を定めていく。(ACP ケアの推進)
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	登録外のショートステイの受け入れをすることで、家族の介護負担軽減や急な泊りの対応もできた。 訪問診療ができる医師との連携をとり、看護・介護が在宅での看取りができるよう支援を行った。 ・ 生産性向上を行い、インカムの導入し情報共有を行い、業務の効率化に取り組んだ	・ 医療・看護・介護が一体となれるような体制を整え、連携ができる記録や情報共有の効率化を図っていく。 ・ 毎月の多職種によるカンファレンスを行う ・ 事故リスクへの共有（事故報告書の評価） ・ ケアプラン・看護計画のケアの目的共通すること ・ 実践に基づいた PDCA サイクル行い、プランに反映し実践につなげる。 ・ インカムの活用し業務改善し、効率化を行うことで、利用者とのケアの質の向上への取り組み。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	地域の方や行事参加を行い、顔なじみな関係づくりの構築した	退院支援・在宅看取りの連携（専門職の看取りのマニュアル作成） 健康講座、介護予防教室の開催 業所の BCP に基づく地域との協力体制の構築 地域交流の場づくり
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		ACP の対話プロセスをどのように記録し、チーム内でどう共有しているかを整理することで、ケアの標準化と質の向上につなげる。	事業所の特徴を地域住民にも身近な存在になるように、地域の住民に啓発する活動を増やしていく。 切れ目ないケアが提供できるよう、生産性向上の取り組みを行い、ケアの質の向上を図っていく ・ 多職種連携の強化

	生産性向上委員会の立ち上げから、テクノロジーの導入、そしてBCP（事業継続計画）の高度化まで、多角的な視点から取り組んだ。	・利用者中心のケア・ACP/・看取りケアの職員スキルアップ ・リスクマネジメントの徹底
--	---	--

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表〔事業所自己評価・運営推進会議における評価〕

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	5	11	<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 看護、介護両面にて利用者、その人らしい暮らしをおこなえるようカンファレンスの実施や職員会議にて話し合いをおこない職員理解に努めケア、支援ができています。 ・家族の介護負担軽減に対してもショートステイ利用者の受け入れなど積極的におこなっている。 ・自施設にて理念を掲げ勉強会などを通して理解などに努めている。 ・地域交流を行い、地域に看多機があつてよかったと住民に認められるようにな		・利用者・家族だけではなく地域においても、事業所を認知されて、地域包括ケアへの貢献ができています。 高い理念でケアにあたっている	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「およそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全 く でき てい ない		
		ってきている。 ・医療ニーズの高い方の体調に応じ活動 量や維持への支援は困難に感じる。					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	3	13	0			✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	1	15	0			✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機	3	12	1			✓ 「専門技術の向上のための日常

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している					・外部研修の内容を職員間で共有することで職員の知識や技術向上が図られてる。	業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	1	15			・インカムによる情報共有と伝達ノートによる二重の情報共有により、多職種間での情報共有ができています。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要		14	2		運営推進会議で様々な意見	✓ 「得られた要望・助言等のサービ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	望、助言等を、サービスの提供等に反映させている					や案内があり、活用できている。 地域行事はできている。	スへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	1	14	1		職員間でフォローし合える環境づくりは職員の働く意欲につながる為、今後も継続して取り組んでほしい。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 会議議事録の作成と閲覧をおこなっており業務への反映に努めた。 毎月事業所の通信により地域交流や行事の様子を掲載し、行事に積極的に参加、サービス利用に関わらない地域の方の生の声を集めやすくなった。					
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 衛生委員会などを中心に、健康診断、ストレスチェックの実施など定期的におこなっている。 ・職員間でフォローし合える環境になるように衛生委員会にて職員間の問題など議題にあげ話し合いなど行っている。 ・外部研修などの参加の際には有給休暇にて参加できている。急な休み、欠員補充などにも対応し配慮がある。 ハラスメント研修・腰痛予防・感染対策					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		の研修を年間研修を定期的実施している。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫されて いる	2	11	3		全員の情報共有ができるよ うもう一工夫が必要。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます
		[具体的な状況・取組内容] 業務などインカム導入により申し送りを 1回から2回に変更された。伝達ノート の活用や職員会議にて話し合いをおこな い状態の変化時は情報共有を行っている。 緊急時やケア変更時直ちにインカムによ る共有できるルールを確立している 記録システムを一元管理し、全職員が即 座に情報を共有できるようにした					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者 等および職員の安全確保の	1	14	1			✓ 「各種の事故に対する予防・対 策」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ため、事業所においてその 具体的な対策が講じられて いる	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 状況の変化に応じてミーティング時に報告し職員全員にて話し合いの場を設けている。ヒヤリハット、事故報告書など作成し予防や再発防止策について話し合いをしている。 ・感染委員会にて勉強会の実施、報告や針刺し事故マニュアル作成などし対応している。事故発生時、要因分析を強化し、事故との寒冷性を詳細に検討する仕組みを確立している。				事故防止や再発予防策について話し合いができています。	対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	6	10	0		・策定された BCP を訓練を通じて適宜更新されており、地域においても心強いものだと思う。今後も BCP 等マニュアルを職員間で共有し実りのある訓練の実施をしてほしい。 緊急連絡網や情報シートの見直しが必要。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 年 2 回の防災訓練の実施、災害訓練の実施。災害時などの緊急連絡網とし SMS を活用している。BCP 策定などもおこない勉強会を通じて職員への理解に努めている。 策定した BCP について整合性を定期的に確認し計画を更新している。 利用者、職員緊急連絡網や情報シートの					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		作成や修正などもおこなっている。 緊急対応のフォローや近隣施設との応援体制などに努めている。				災害・防災訓練、サービスを 中断しない為の対策を日常的 に行っている。	
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況 や家族等介護者の状況等を含 む、利用者等の 24 時間の暮ら し全体に着目したアセスメント が行われている	1	12	3		24 時間暮らしを支えることが 事業所の強みでもあり、苦 労の部分でもあると思いま すが、今後も利用者に合った ケアを実施をお願いしたい。 自己評価にバラツキがある。 家族を含めたアセスメント がサービスに直結すると思 う。	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮ら し全体に着目したアセスメント」 の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護 小規模多機能型居宅介護におい ては、家族等を含めた 24 時間の 暮らし全体に着目したアセスメ ントが必要となります
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者に合わせた暮らし方がアセスメントにて行われている。カンファレンスにて職員間にて検討を行い利用者や家族への生活状況など検討しケアにつなげている。 ・毎月合同アセスメント会議を実施し心身機能・生活機能の変化と在宅環境との関連を分析し。ケアプラン作成とサービ					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		ス見直しを行っている。 ・業務、勤務体制（夜勤体制）が変更、 利用者側の不満など把握できているか不 安なところもある。					
12	○ 介護職と看護職がそれぞ れの視点から実施したアセス メントの結果が、両職種の 間で共有されている		14	2		看護・介護の異なる視点での 情報共有は専門職のスキル アップにつながるので継続 してください。	✓ 「介護職と看護職間でのアセス メント結果の共有」について、充 足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたア セスメントの結果は、その後のつ き合わせなどを通じて、両職種で 共有されることが望ましいとい えます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考え を把握するとともに、その	2	13	1		利用者と家族のコミュニケ ーションは大切。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の 作成」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	目標の達成に向けた計画が作成されている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> サービス担当者会議や日頃の利用者や家族の訴えを反映している。担当者会議や看護、介護職間での情報交換と多職種間にて情報交換や収集などして。 ・家族面談時 ACP の意向把握している。 達成意欲が高まる目標として書面にて合意を得ている。 ・本人の意向に基づく、医療処置を看護計画明確に反映している。					利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	2	14			利用者の有する能力をいかした計画作成ができている。 看護計画・生活リハビリのプランの見直し、機能維持向上を目指す計画の作成ができている。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 毎月、看護計画の見直しをしている。 訪問診療や訪問リハビリ、福祉用具の活用で回復、向上を目指す計画の作成をしている。 各自でリハビリのプランがあり機能維持低下しないよう経過票を作成し生活水準の見直しをおこなっている。 生活に直結した目標設定とし、生活リハビリを実施している。 介護職は残存機能を活かせる環境整備と					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		声掛けを計画に明記している。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	2	14	0		インシデントやヒヤリハット報告書も活用されており、実態に即している。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 護計画、報告書の作成やインシデント、ヒヤリハット報告書など活用している。 看護、介護職、多職種にて連携を取り情報共有など行っている。 嚥下リスクや転倒発生頻度の高いリスクについても予防策を計画に盛り込んでいる。デイサービス回数や緊急時に泊りサービスへの切り替えなど柔軟なサービスが行えている。					
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	14	1			✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 日々のケアと申し送りなど活用し随時計画の見直しとケアマネージャーへの報告					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		をおこなっている。日々の生活の様子や ケア記録により計画の見直しや状態の変 化に反映されている。 いつもと違うことに気づき、申し送り で情報共有している。状態変化を早期に 把握し迅速な対応につなげている。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度 に偏らないよう、適時適切 に利用者宅を訪問すること で、家族等を含めた居宅で の生活状況の変化を継続的 に把握している	3	13	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・ 訪問を適宜行い生活状況の確認を行い 看護・介護の視点から多角的にアセスメ ントを行いサービスへ反映している。 生活上の課題を適時サービスへ反映する ことで過度に偏ることがないように実現 している。 ・ 家族の訪問や自宅送迎時に声をかけな ど情報収集をしている。 ・ 定期的、必要に応じてアセスメントの 実施や計画の見直しを行っている。		訪問を適宜行い、生活状況の 確認や声掛けによる情報収 集把握に努め、サービスの質 の確保につながっている。 生活状況を把握しサービス に反映できていることはよ いと思う。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居 宅での生活状況の変化の継続的 な把握」という視点から、充足度 を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等 を含めた居宅での生活状況を把 握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標	3	13			事業所内外の多職種と情報	✓ 「利用者等の状況変化や目標の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている					共有でき、より多角的な視点で「状況変化」「目標の達成状況」を確認ができています。	達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	3	12	1		看護・介護の双方で柔軟な役割分担を継続してほしい。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うこ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		いと考える。					とが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	2	14				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	0	16	0		看護職の専門性を生かした情報提供や提案が行われ、介護職の方々のスキルアップにもつながることが期待できます。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・感染対策や対応方法について看護師から情報提供や指導を行った。 ・褥瘡リスクを踏まえ、体位変換・ポジショニングの指示具体的な観察事項を介護職へ直接指示・提案している。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	14			利は用者等へのサービスや費用等の説明はトラブルにもなりやすい項目です。評価が良いことがわかります。丁寧な説明が利用者や家族の不安解消にもつながりますので今後も継続してください。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 入所時の説明は費用・特徴について利用者・家族が理解できるように重要事項説明を用いてしっかり説明している。 担当者会議や入所時にて説明をおこなっている。日常のケアなど聞かれた際には再度説明など行っている。 利用者の状態の変化、緊急時受診など家族には随時説明を行うようにしている					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	14	0			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 担当者会議など家族、利用者本人と計画書、書面を見ながらわかりやすい言葉で話し、理解を得るようにしている。 「なぜこのような支援が必要か」「どのような効果があるのか」を説明を行い、ACPや看取り支援など将来の選択肢についても丁寧に共有している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	14			医療機器や医療処置など利用者や家族は不安になりやすい為、繰り返し説明してもらえると安心感が増えると思います。 ・利用者にわかりやすく説明し、わかりづらい点は聞きやすい環境が必要。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 酸素ボンベなどの取り扱いについては一人ひとりに繰り返し説明を行い家族や本人の不安・負担を軽減できるように活用方法を提案している。 面会時必要に応じて説明している、排痰法など一緒に行い、リハビリを行うことで利用者の理解を得ている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	2	14			筆談やジェスチャー等の非コミュニケーション方法や表情等、様々な方法で意向の把握ができています。把握した情報を支援に反映でき、本人の希望に沿った支援の実現を継続してほしい。 ・職員間での話し合いが十分にできています。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 重度認知症利用者については本人、家族に意向など確認している。筆談やジェスチャーなどの非コミュニケーションなど使用している。 日常会話や表情・行動変化から本人の思いがくみ取れるよう職員間で情報共有を行いPDCAサイクルを行い。個別支援計画反映させサービス担当者会議にて本人の声を反映した支援内容にしている					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	2	14	0		関わりのある職種の方々の多角的視点から想定するリスクを含め、対応方法の共有を継続してほしい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 主治医、かかりつけ医、家族と連携し対応できている。担当者会議、利用者の相談は他職員と共有しカンファレンスにて方針を決めている。急変時には早めの受診対応に努めている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計ら	3	13			<u>家族の意向の記録を残しておくことが大切。</u>	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	って、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 状態に応じ家族と連絡をとりその都度意向を聞き記録している。急変する可能性が高い利用者は家族とともに主治医から予後の説明など受けている。				・終末期ケアは特に意向を聞き、記録ができています。	点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	5	11			カンファレンス等の参加や入院時の情報共有、医療連携を円滑に意向できる支援の継続。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	6	10				✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		状況に応じてその都度医師への相談、共有をしている。訪問指示書にて看護計画の作成など行っている。 緊急時情報シートにて記載し全利用者分のシートを事業所内ファイルを常備し、共有できるようにしている。					を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	5	11			急変時、対応方針が定めている。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 急変時の入院、入所の可能性がある利用者にあらかじめ対応方針を主治医と相談できている。どのように対応するか構築できておりフローチャートの作成や緊急時はすぐに看護師に連絡できる体制となっている。 24 時間オンコール体制を整備し、緊急性がある場合は夜間・休日にも必要な処置・初期対応ができています。入院体制も構築できている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、 利用者のために必要と考え られる包括的なサポートにつ いて、民生委員・地域包括 支援センター・市区町村職 員等への情報提供や提案が 行われている	2	13			利用者・家族も参加しており 活発な意見交換もでき、地域 の良好な関係づくりができ ている。	✓ 「利用者のために必要となる、介 護保険外のサービスやインフォ ーマルサポート等を含めたケア の提供について、多職種とともに 検討・支援を行っていくなどの取 組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことが ない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や 町会長などの住民代表も対象で す
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録につい て、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている	7	9			事業所での行事等、写真がた くさんあってわかりやすい。 情報発信も迅速にできている。	✓ 「誰でも見ることができる方法 での情報発信」と「迅速な情報発 信」の2つの視点から、充足度を 評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	14	1	0	ホームページや広報誌・通信等様々な媒体を活用されている。情報が多数あり大変助かっている。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	1	14	1		ショートステイの対応や登録外の家族にとって心強い。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	4	10	2		引き続き、受け入れ体制の充実に努めてください。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 痰吸引が可能な介護職員がいる。痰吸引が必要とする利用者についても常勤の看護師にて受け入れ体制は整っている。夜勤時の対応など看護師にて行えるような体制作りがされている。痰吸引が必要な利用者については主治医より指示書を頂き、看護師の指示に沿って介護職員が吸引を実施できるよう構築している。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている					受け入れ体制が整うまで、マニュアルの整備等、可能な範囲で対応を行って下さい。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 人工呼吸器の利用者の受け入れは整っていない。現在、人工呼吸器を必要とする利用者はいない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	5	10	1		看取り体制が整っている。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	2	13	1		地域包括ケアシステムの中心的な役割を担っていただき、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるために理解を深めてほしい。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	2	9	3	2	集合住宅に限定されず、地域の在宅で医療ニーズの方に対してサービスの提供をしてほしい。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	2	11	2	1	地域行事の参加を積極的に取り組まれて、情報発信されている。地域の方の介護力の引き出し生かしてほしい。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやイン

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							フォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	1	11	4		外部の人への介護力引き出し、向上力を上げる具体的な取り組みが今後の課題と思われる。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている 4. 利用者の 1/3 には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者ニーズを把握し取り組みの課題や目標が達成できるよう支援している。 ケアプラン計画目標に沿ったサービス提供により達成できている	計画目標の達成について、目標設定を低くする必要はありませんが、達成できなかった方については、その要因の検証や検討を行ってください。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	① ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている 4. 利用者の 1/3 には満たない	引き続き、利用者や家族が安心できるようなサービス提供をお願いします。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護、介護職が連携し対応しており医療が必要な状況においても在宅での療養生活が継続できている。24 時間支援を行い安心感を得られている。 ・病状の変化や急変時には早めに主治医へ報告、かかりつけ医への受診などに繋げている。 切れ目のない情報共有と連携を強化していることで安心感につなげている。	医療と連携により、利用者・家族の安心感が得られている	ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている 4. 利用者の 1/3 には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院、医療との連携ができており現在も受け入れ態勢は整っている。担当者会議など通じて利用者、家族の意向を伺っている。	看取り支援の体制が年々整えられており、利用者家族においても安心が得られている。 ACP の取り組みにより利用者の思いに寄り添い看取り体制の構築に役立っている。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		ACP の開始、本人、家族が安心できるサービス提供を行っている。 24 時間対応の看護師体制と利用者の意思を最優先とするACPの徹底を通じ、在宅での看取りを希望する家族が多くなり、最期まで家で過ごせるという安心感を得られるサービスを提供している。		